

年頭所感

新年挨拶



おおさか市町村職員研修研究センター所長 齊藤 慎

平成22年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、良き新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年中は景気がどこまで落ち込むのか不安な時期が続いておりましたが、秋以降には、ようやく景気が幾分持ち直したのではないかとの統計がいくつか出ました。これらを反映して、平成21年11月20日に内閣府が公表した11月の月例経済報告では、「景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある」とされています。さらに、「雇用情勢の一層の悪化や海外景気の下振れ懸念、デフレや金融資本市場の変動の影響」など、まだまだ先行きにリスク要因があることを表明しています。これまでの各国政府による景気対策・金融対策の効果が現れて、ようやく経済がやや回復しかけているわけですが、まだまだ今後とも対策が必要と思われる。

特に、国内外とも不良債務の全体像が把握しきれないこと、国内ではデフレ・スパイラルに陥る可能性があることが危惧されます。前者に関しては、11月25日（現地時間）に、ドバイ政府がドバイワールドなどの債務返済延期を要請した、いわゆるドバイ・ショックにその一端が現れました。後者に関しては、11月20日に菅直人副首相兼経済財政担当相が「日本はデフレ」と記者会見で表明し、平成13年3月～18年6月の時以来3年5カ月ぶりに戦後2回目のデフレに逆戻りしたとの認識を示しました。物価下落と経済活動縮小がスパイラル状態で続くデフレは深刻な経済状況を招く可能性があり、実物面では財政政策を中心としたデフレ・ギャップ解消策が、金融面では一段の金融緩和策が求められます。不良債務およびデフレのいずれも対策が難しい問題で、また日本だけの問題でもありません。どれくらいの規模・どれくらいの期間がかかるか分からないのですが、財政政策・金融政策を総動員して最優先で対処する必要があります。

それでは、平成19年3月中旬に起きた「サブプライム・ショック」とそれに引き続く世界的な景気悪化の中で、当面の対応は別として、日本は中長期的にどのような方向を目指すべきなのでしょう。これまで日本は長く輸出を中心とした産業構造を構築・維持してきました。今後は内需を中心とすべきという意見も尊重する必要がありますが、人口減少と高齢化の急速な進展ということを考えると、やはり輸出に一定の役割を期待せざるを得ないでしょう。現実にはグローバル化は否応なしに進展しています。その

ため国内マーケットの競争も厳しくなることは間違いないでしょうが、BRICsなどの新興経済国の経済発展で国際市場での競争は今後さらに激烈になるものと思われまます。インドで超低価格車が18万9,000円（10万台限定）で売り出されたことを知ると、これまでの日本製品の特徴であった安価で品質のよいという特徴だけでは競争に勝てないかもしれないと考えてしまいます。日本の消費者の見る目が厳しいため、日本ではよいモノができるといわれてきましたが、場合によっては、過剰性能（オーバースペック）になりかねません。

同じものを同じ方法で作ると安価な労働力を活用した方が有利なことは当然です。日本は他国より労働賃金が高いので、価格だけで競争に打ち勝とうとせず、異なった品質のものあるいは他国では作れないものを作る必要があります。そのためには、研究開発（R&D）の比率を高める必要がありますし、同時に教育を充実することが何よりも必要です。遠回りに見えるかもしれませんが、資源の少ない日本にとっては人材への投資がもっとも着実に効果的な方法と思います。

2003年に行われたOECDによる学習到達度調査PIISA（the Programme for International Student Assessment）で数学や読解力の分野で日本の順位が下がり学力低下が危惧されたことはまだそれほど以前のことでありません。マスコミ等では、学習到達度の平均値が問題視されることが多いように思いますが、実感としては、到達度のバラツキが大きくなったのではないかと気になります。成果を上げている他国の実践例を参考にしながら、もっとも基礎的な初等・中等教育の改善が望まれます。もちろん、経済的な側面からも高等教育の重要性はいうまでもありませんが、通常の教育課程を修了した人々への教育もこれまで以上に重要なものとなっていくでしょう。

マッセOSAKAも、市町村職員等に役立つ研修・研究組織として、これまで以上に努力してまいりたいと考えております。それがマッセOSAKAの使命であり、活動を通じて大阪府内市町村の活性化につながればと願っております。

最後になりましたが、本年が素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げますとともに、皆様方のご健勝とご多幸を祈念致しまして年頭のご挨拶といたします。